

地域の歴史・文化を活かし里山再生に取り組む

団体名：金沢諏訪堂の会(秋田県美郷町)

○	地域環境保全タイプ (里山林保全)
	地域環境保全タイプ (侵入竹・竹林整備)
○	森林資源利用タイプ
	森林空間利用タイプ



活動に取り組んだ経緯

地域の里山再生を目指す

- ・美郷町金沢地区は、平安時代に栄えた清原一族の縁の地であり、周辺の里山には歴史に関わる史跡が残っているなど、歴史と里山との関わりは深い。この里山は、以前は手入れが行き届いた多様性豊かな森林だったが、現在ではかつて利用されていた山道が分からないほど荒廃が進んでいた。
- ・「金沢諏訪堂の会」は、このような状況を憂慮し、地域の里山を再生させようと平成23年に設立され、近隣地域の住民18名で活動を始めた。
- ・森林の整備とともに、荒れ果てた山道を整備し、その後、森林資源の有効活用を進め、里山の再生を目指す。
- ・同会は地域住民の関心を高め、賛同者の増加につなげるために、里山の整備と併せ、地域の歴史を振り返る取り組みを一体として活動を展開している。



▲倒木を分割して運び出す

活動の内容

間伐や下草刈りによる山道の整備（地域環境保全タイプ）

- ・秋田県美里町の金沢地区には4つの組合が共同で所有する約160haの共有林が広がっている。この共有林は長い間全く手入れが行われておらず放置されていたため、昔は利用されていた山道が、倒木や下草等でその存在が分からないほど荒れ果てていた。全長約6kmに渡る山道を間伐や下草刈り等を行い整備することで、遊歩道として散策を楽しむように修繕を行う。また、かつての里山を再生し、山林の多面的な機能を蘇らせようと活動している。

森林資源を有効活用し、持続可能な森林に導く (森林資源利用タイプ)

- ・現在は里山の整備、山道の修繕を行っている段階であるが、今後は間伐した木材等の森林資源を有効活用し、継続的に里山林の景観と生体を保全していくことを考えながら活動している。
- ・将来的には教育の場として利用することや、森林資源をバイオマスエネルギーとして活用していくことを検討している。



▲山道の整備。道なき道を進む

活動の成果・効果

秋田県御嶽山につながる全長6kmの山道の完成

- 山道の整備は、地図やGPSを利用してかつての山道の位置を確認し、作業を進めた。
- 作業範囲は全長6kmに渡り、全て同会で位置の計測から山道の整備まで行った。荒れ果てた林内の整備には時間も労力も大変かかったが、数年かけて近隣の山頂に続く山道を通すことができた。
- さらに整備を進めることで、来年には登山道として開通式を行う予定だ。

絶滅の危険があるクロサンショウウオの発見

- 環境省では絶滅の恐れのある野生生物をまとめたレッドリスト公表しているが、その中でクロサンショウウオは、「将来的に絶滅する危険性がある（準絶滅危惧）」とされている。
- 山道の整備を進める途中の沢で、同会がクロサンショウウオの卵を発見した。発見後は環境省や県環境部へ連絡をしている。

活動タイプ	延べ参加人数	活動回数	活動面積
【里山林保全】 林道の整備等	(H25) 69人	(H25) 16回	(H25) 7.7ha
	(H26)	(H26)	(H26)
	実施中	実施中	10.7ha



▲発見されたクロサンショウウオの卵

工夫した点・苦労した点・今後の課題

山道の位置や森林境界の計測に1年ほどの時間がかかった

- 山道の位置の特定や森林境界の計測は同会のメンバーが行ったが、荒廃した広大な森林内の計測作業は大変困難であり、全ての計測を終えるまでに約1年の時間を費やした。
- 対象領域の把握には森林簿や森林基本図、国土地理院の地図等を利用したほか、交付金の活用でGPSを購入して行った。対象領域を歩きながら緯度経度を測定し、山道の位置の特定や森林境界の計測を地道に行った。山道の全長は約6kmに及び、多くの時間と労力を費やした。



▲携帯GPS機器を使用し1年をかけて山道の位置の特定・森林境界の計測を実施

森林資源の有効活用を今後進めていく

- 現在は山道を通す活動を進めている段階であるが、今後は、森林資源を有効に活用し、持続可能な森林に導くことを考えている。特に木質バイオマスエネルギーのシステム構築について検討を進めている。

<総括> 成功を生んだポイント

2つの活動の柱が参加者の増加につながる

- 同会では協力者を募るために、里山の整備だけでなく、地域住民の関心を高めるためには柱がもう一つ必要と考え、地域の歴史と文化をもう一つの柱とすることにした。
- 美里町金沢地区は、平安時代後期の「後三年の役」で知られる清原一族と深い関わりがあり、この歴史を振り返るシンポジウム等を同会が主催し行っている。地域の里山には清原一族と縁のある史跡がいくつかあるため、地域の歴史と里山をつなげ、2つの柱を一体として活動を行うことで、活動への関心を高め、メンバーの増加につながっている。

活動の後押しをした交付金

- 平成23年に同会を立ち上げてから森林整備活動を行ってきたが、国の事業に関わっているということが、活動のモチベーションにつながっている。また、日当が交付金の対象となることから、活動への参加を呼び掛けやすくなり、活動の回数が大幅に増えた。